



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Title	へびつかい座超銀河団の局所銀河群の特異運動に及ぼす影響(はしがき)
Author(s)	若松, 謙一
Report No.	平成11年度-平成12年度年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2) 課題番号11640232) 研究成果報告書
Issue Date	2000
Type	研究報告書
Version	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/484

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

は し が き

2年間での本研究で、超銀河団やウォール、ボイドなどからなる Local Universe の大規模構造とその特異運動に関する観測的研究の準備が大きく前進した。南半球の全天について、オーストラリアのサイディング・スプリング天文台 UK Schmidt 望遠鏡を用いた約 10 万個の銀河の赤方変移を測定するプロジェクトが、2001 年 6 月から本観測がスタートする予定である。以下、これまでに進んだ予備的な研究をまとめておく。

- 1) 運動を調べるため、赤方変移測定用の銀河の homogeneous sample の方針として、2.2 μ 赤外線全天サーベイ (2MASS All Sky Survey) で検出された銀河のうち、 $K < 13.7$ mag より明るい銀河約 12 万個とすることとした。
- 2) この方針に基づいて、ハーバード大学の J. Huchra 教授の協力のもと、へびつかい座領域について、サーベイ用銀河のカタログを一部完成させた。
- 3) このリストと、我々が独自で SERC-J Sky Survey に基づいてピックアップした銀河との相関を調べ、銀河の座標が 3 arcsec 以内の精度であることがわかり、観測に支障のないことを確認した。
- 4) サイディング・スプリング天文台では、UK Schmidt 望遠鏡用の多天体分光器の製作が順調に進み、光ファイバーのポジショナーが 2001 年 2 月中に稼動し始め、最後の調整を 5 月までに終えて、6 月からの本観測の目処がついた。
- 5) へびつかい座領域の観測が 2001 年 7 月 13 日から 6 夜割り振られることが確定した。